

平成 29 年度 学校評価（具体的な取り組み内容と達成状況）

1 めざす学校像

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸張させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④浪商高校創立100周年までに、浪商ブランドを確立する。
泉州を代表する進学校、大阪を代表するスポーツエリート校

2 中期的目標

- ①生徒個々に応じた学力の向上
授業力の向上：I・II類コースでは学力の伸長をめざす。標準コースでは基礎基本の定着を図る。
授業にとどまらず様々な場面での学習環境を整備する。
生徒の自主的な学習態度を養う
- ②生きる力の育成
規律ある学校生活を送り、生徒会活動などを通じて自主自立の精神を育てる。
様々な体験活動やボランティア活動を通じて豊かな感性を養う。
道徳の教科化への対応
- ③中高一貫教育の推進
今年度入学生より中高一貫教育を実施。6年後の進路を見すえ、計画的継続的教育活動を進め、学習面は言うまでもなく部活動でも生徒の個性を伸長しすぐれた才能の発見に努め、文武両道教育の一層の充実をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会における提言内容】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会における提言内容
<p>＜生徒＞</p> <p>全体的に見ると、学年、クラスによって数値が大きく異なっている状況がある。昨年度は特に 2 年生に低い数値が出ていたが、3 年生になり一定緩和されている。また、I・II 類コースは比較的肯定率が高いが、標準コースでは低い傾向が出ている。</p> <p>☆学習</p> <p>「授業が分かりやすいですか」がマイナス 8%、「先生は教え方に様々な工夫をしていますか」がマイナス 10%という数値が出ている。また、「授業でわからないところを先生に質問していますか」がマイナス 13%となっている。学校生活の基本である授業に対してしっかり受け止めなければならない数字である。授業規律など基本的な部分から再度見直し、アクティブラーニングなど様々な指導方法を研究し生徒の学習意欲を引き出していくことを全校的に取り組んでいきたい。</p> <p>また、家庭学習が依然低い数値となっている。計画的な課題や宿題などを用意し学習習慣の確立をめざしていく。</p> <p>「自分たちが困ったり悩んだりしているとき相談ができる先生がいますか」がマイナス 16%、「先生は生徒の頑張りを良く評価してくれますか」がマイナス 10%となっている。生徒の評価に関してよいところを見つけ指導する姿勢をより高めていく。多様な生徒が在籍しており、生徒とのコミュニケーションをより深めていくことに努めていく必要がある。</p> <p>☆部活動</p> <p>「部活動に積極的に参加しています」が 81%で昨年より微増している。「顧問の先生はよく面倒を見てくれるか」も 4%だが増加している。本校では、部活動は生徒が成長できる場面であると位置づけており、より充実した指導体制をめざしていく。</p> <p>＜保護者＞</p> <p>昨年度とほぼ同じ肯定率になっているが、やはり学年、コースなどで異なっている。例えば、「お子さんは学校に行くのが楽しいと言っている」では、1 年 93%、2 年 94%であるのに対して 3 年では 74%になっている。「先生は保護者からの相談に適切に対応している」はプラス 10%の 89%となっており、これからも丁寧な対応を進めていきたい。ただし、「お子さんは先生の学習指導はていねいだと言っている」はマイナス 11%であり、学習指導について、生徒の実態を踏まえ授業方法の改善に取り組んでいく。教育活動全般に対して、説明責任を果たし保護者の理解を得て連携を進めていきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の回答で「授業でわからないところを先生に質問していますか」「毎日、家庭学習をしていますか。(塾以外)」「図書館を利用していますか」が肯定率 50%未満であることは、生徒の自主性が高くないことを反映しているものと思われるが、だからこそ学校側が自主性を高めるような取り組みの重要性を示唆しているものとも言える。 ・保護者の回答で「先生は保護者からの相談に適切に対応している」が前年度から 10 ポイント増加しているのは評価される。自己評価にあるように、今後も丁寧な対応をしていただきたい。 ・教員アンケートで肯定率が 22% (9 名中 2 名、「本校では授業規律が保たれ、生徒に対する指導はしっかりしている」)、11% (9 名中 1 名、「本校では教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」という極端に低い項目がある。前者の肯定率は昨年 (78%)・一昨年 (100%) は高かったので何か原因があったのではないかと懸念される。後者は昨年・一昨年の肯定した教員が 9 名中 5 名だったのが、今年度は 1 名しかいないのも気になる。 ・上記 2 項目の教員の肯定率が低いことが、生徒の「自分が困ったり悩んだりしているとき、相談できる先生がいますか」「先生は、生徒の頑張りをよく評価してくれていますか」の肯定率の低下の要因になっているようなことはないか危惧される。 ・生徒の「授業には積極的に参加していますか」「学校行事 (文化祭・体育祭) に楽しく積極的に参加していますか」の肯定率は上昇していることは、教員の尽力の結果ではないかと思われる。 ・浪商中学校に行かせたい理由として部活動面だけではなく、学習面においても持ってもらうために、高校の進学実績にも期待したい。 ・中高一貫として高校とのつながりをもっとはっきりさせることが必要である。 ・様々な経験を通し、人間形成としての場となしてほしい。 ・高校の部活動でも活躍できる生徒を育てるための環境も必要である。 <p>【平成 30 年 9 月 7 日実施 出席者】</p> <p>大阪体育大学 体育学部 健康・スポーツマネジメント学科長 岡村浩嗣 前浪商中高保護者会顧問 現大阪体育大学保護者会 中井剛弘 浪商中学校・高等学校 校長 清水俊彦、副校長 恩塚千代、教頭 工藤哲士・濱田倫史 事務長 寺西正和</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生徒個々に応じた学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領の研究と研修 ②学力定着、向上の組織的取り組み ③生徒の自主的な学習態度の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ①新学習指導要領のもと中高一貫を推進するための研究と研修 ②演習の明確化と実施 ③授業力向上に向けての取組 ④授業規律 ⑤各種検定への全校的取り組み ⑥ステップアップ講座の実施 ⑦ALT の活用による英語 4 技能への取組 ⑧大阪体育大学教育学部と連携した学習サポートの充実 ⑨生徒保護者への情報提供の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研修、校外研修の実施 ②各教科で演習を実施 ③研究授業、管理職による授業見学、授業アンケートの実施 ④ベル着の実施 ⑤英検、漢検全員受験 I・II類コースの GTEC 受験、数学検定希望者受験 ⑥ステップアップ講座の実施 ⑦英語授業の充実、イングリッシュランチの実施、英語キャンプの充実 ⑧学習サポートの充実 大阪体育大学教育学生の協力による放課後学習の充実(週 5 日) ⑨配付プリントの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ①校内研修 (2 回)、校外研修 (1 回) 実施 (A) ②教科によりばらつきがあったので一層の改善をめざす。(B) ③管理職による授業見学の実施 (A) 生徒に対して授業アンケートの実施 (A) ④ベル着の定着 (A) ⑤英検 (1 回)、漢検 (2 回) の全員受験実施、I・II類コースで GTEC 実施、数検の希望者受験の実施 (A) ⑥受験指導のためのステップアップ講座を 2 学期以降毎日実施 (A) ⑦ALT による英語のみの授業を実施、イングリッシュランチを全クラスで実施、英語キャンプの内容を一新し充実 (S) ⑧大阪体育大学教育学部の学生による放課後の自学自習のサポートを週 5 日実施 (A) ⑨わかりやすい配付プリントの作成 (B)

生きる力の育成

- ①ピアサポートトレーニング
など人権教育の推進
- ②生徒会活動の充実
- ③ボランティア活動の充実
- ④キャリア教育
- ⑤部活動

- ①道徳の教科化に対応したプログラムの作成
いじめアンケートと連携したピアサポートトレーニングの実施
- 警察と連携を密にした安全教育の実施
- ②生徒会活動の定着と充実
- ③ボランティア活動
- ④キャリア教育
- ⑤部活動を通じた学校生活の充実

- ①道徳の年間計画を作成
ピアサポートトレーニングを各学年7回実施
いじめアンケート実施
(2回)
- 薬物乱用防止教室の実施
- 熱中症対策教室実施
- 交通安全教室の実施
- 防犯教室の実施
- ②生徒会主催行事の実施
各種委員会の活動(年6回)
- ③「こころの再生府民運動」への参加
朝の挨拶運動
熊取駅前清掃の実施
老人ホーム、幼稚園訪問
- ④職場体験学習の実施
- ⑤部活動加入率(90%)

- ①道徳の3学年の年間計画作成(A)
- 生徒の実態を踏まえたピアサポートトレーニングを実施(A)
- いじめアンケート年2回実施、結果を受けて指導する(A)
- 各種教室を計画通り実施(A)
- ②生徒会活動は停滞した感がある。前年通りではなくより充実した活動をめざす(C)
- ③平成26年から3年続けてスクール表彰を受けている。社会に関心を持ち社会に参加する生徒の育成に努める(A)
- ④職場体験の受入れ事業所の開拓(A)
- ⑤部活動加入率90%(A)
- ハンドボール部、体操部、水泳部が全国大会出場

<p style="text-align: center;">中 高 一 貫 の 推 進</p>	<p>①中高一貫教育の推進のための校内体制の整備 新校舎の活用</p> <p>②広報活動の一層の充実 入試広報部の定着 入試対策室との連携</p> <p>③入試制度の改善</p>	<p>①中高一体の組織運営 中高の人事交流の一層の推進 中高一貫6年間のカリキュラム研究 新校舎建設に伴う教育環境の充実 アクティブラーニングの全校的な取り組み</p> <p>②入試広報部の定着 業務内容の明確化と責任体制の確立</p> <p>③入試制度の改善</p>	<p>①担任、分掌、部活動などで中高教員が連携する体制づくり 新校舎の活用による新たな取り組み</p> <p>②入試広報部の活動 各種説明会における主体的な役割を担う 中学教員による塾訪問</p> <p>③ベーシック入試の定着</p>	<p>①教科、分掌、部活動などで中高教員の協力体制が進んだ (A) 6年間を念頭においた担任の配置をめざす 新校舎の積極的活用が実現した アクティブラーニングへの取り組み (C) 研究と研修を続け具体的な取り組みを実施していく</p> <p>②入試広報部の業務分担が明確さされてきた (A) 若手教員の積極的な提言があった 中学教員の塾訪問 (C) 入試広報部、入試対策室との連携を一層進めることで改善していく</p> <p>③ベーシック入試の定着 (A) 受験生の多様な能力を引き出す入試制度の研究・実現をめざす</p>
--	---	--	---	---

達成状況は次の5段階評価で示す

S:よく達成できた A:まあまあ達成できた B:どちらとも言えない C:あまり達成できていない D:まったく達成できていない